

2019 フィンドレー大学交換留学研修 活動報告書

薬学部薬学科 生薬学講座 助教 横川貴美

期間：2019年8月14日～2019年10月22日

滞在先：フィンドレー大学

本学の教育交流協定校であるフィンドレー大学（UF; University of Findlay）は米国オハイオ州の北西に位置しており、少し車を走らせるとトウモロコシや大豆の畑が一面に広がる。そのUFの薬学部には約2か月滞在し、授業や学内のイベント等に参加してきた。米国での多くの薬学部は教養科目などの単位を2-4年かけて修得した後に入学して更に4年間の勉強をする。そのため、薬剤師になるためには最大8年を要することもある。UFでは0+6プログラムを採用し、6年間の一貫教育を行っている。0+6プログラムは米国でも9大学のみ採用であるため比較的珍しいシステムである。UF薬学部での教育方法・学生の学習法、学生募集のイベントについて報告する。



UFの校舎



ホームカミング（同窓会）の
デコレーション

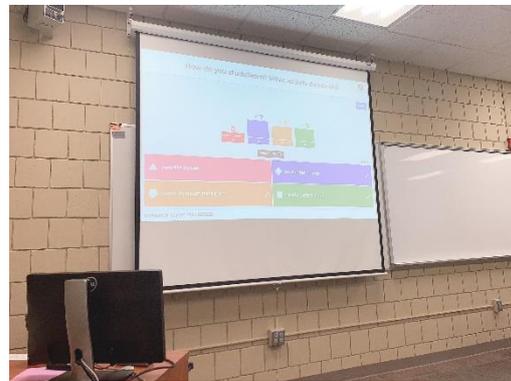
①教育方法・学生の学習法

UF薬学部では5年前から教科書やテストが電子化され、学生はパソコンを開きながら授業を受講していた。教員は事前に授業スライドや課題をオンライン上で配布し、学生は自分のスタイルに合わせて授業内容をパソコンに入力したり、事前にプリントアウトしたスライドに書き込みをしたりしていた。薬学の教科書は厚く重い専門書が多いため持ち運びが大変であるが、パソコンが1台あれば教科書も読めるため、重い教科書を持ち運ぶ必要もなく忘れ物も少ないと思われる。

試験にはExamSoftという学生のパソコンで試験を行うシステムを採用していた。このシステムの導入により試験の採点が自動化されたため、採点が正確で教員は採点に時間が取られなくなったという。さらに問題別の正答率、解答所要時間なども詳細に分析できるため、学生に合わせた指導が行えると話していた。カンニング防止のため試験の問題番号や選択肢の順番が学生によって変わり、学生はパソコンに覗き見防

止のフィルターを使用することになっていた。

1年生の講義ではなぜ学ぶのか、どのように学習すると効率的かなども扱い、高校から大学に移行したときの学習法や授業形式の違いによる戸惑いを軽減させる取り組みが行われていた。またKahoot!というWebアプリを使用してクイズ形式で授業を進めることもあり、学生は楽しみながら授業に参加していた。Kahoot!では教員が準備した4択クイズを学生がスマホで解答するのだが、正解発表と解答の分布がリアルタイムで表示され、正確さと速さがポイント化されるため学生はゲーム感覚で楽しむことができる。Kahoot!は学生全員が頭を使って授業に参加できるため授業に有用であると感じた。また学生はQuizletというアプリを使用しフラッシュカードや問題を作成し、学習に役立てるなど、電子化された勉強方法を取り入れていた。もちろん日本と同じように、自分で授業ノートをまとめたり、テキストに線を引いたり、繰り返し書いて覚えるなどの勉強法も行っていた。



Kahoot! を用いた授業

米国薬剤師国家試験のUFの合格率は全米の平均合格率より高いため、質の良い教育を行っていることが裏付けられている。

②学生募集イベントの様子

オハイオ州には公立は4大学、私立は3大学、合計7大学の薬学部が設置されており、UFから約30分車を走らせると他大学の薬学部があるため、学生獲得のために努力が必要であるとのことである。入学者数を増やすための試みとして夏休み期間に5日間大学内の寮に宿泊しながら薬学の体験を行うサマー・キャンプや、高校生が1日薬学体験を行うVIP2 Day (Very Important Potential Pharmacist Day)、大学見学への個別対応などを実施していた。個別対応では教員が薬学部のパンフレットを用いてカリキュラムや学部の特色、利点などを説明し、キャンパスツアーを行っていた。保護者も一緒に



UFのマスコット Derrick と

見学していたので、親子一緒に進学について考えることができる時間になっていた。一方、VIP2 Dayでは保護者は参加せずオハイオ州内の薬学に興味のある20名程度の高校生に対し実施していた。薬学部はどんなところか、薬剤師はどんな仕事か等の説明から始まり調剤体験や患者ロボットに触れたり、キャンパスツアー、学生とのフリートークなど様々な体験

が企画されていた。最後には大学のマスコットキャラクターと写真を撮る時間もあり、1日を通して薬学部や大学の良さを実感できるプログラムとなっていた。またVIP2 Dayの運営には学生も携わっており、学生自ら学生生活や勉強について話すため、高校生は自分の将来の姿をイメージしやすく、学生にとっても話し方や伝え方、コミュニケーションの訓練にもなると思われる。さらにTwitter、Instagram、FacebookなどのSNSに薬学部専用のアカウントを設置し、学生が積極的に情報を発信していた。SNSの更新を行っている学生は報酬を受けとっているため、一定の頻度で質の高い情報が更新されている。学生視線の情報発信は在学生や教職員、卒業生、保護者だけでなく高校生が学部の情報を得るツールとしてより有効であると感じた。

在学生に入学の理由を聞くと大学を選んだ理由として、都会すぎない立地や環境、フレンドリーな教員、6年で薬剤師免許が取得できる、奨学金の条件（奨学金の種類が多い）などが挙げられた。ほとんどの学生が入寮して6年間生活すること、授業料が高額であることもあり入学前に1度は何らかの形でUFの見学している人が多く、入学前の対応は重要であると感じた。

この他にも2か月間で、入学式やWhite Coat Ceremony（専門科目が多くなる3年時に行われる）、ホームカミングパーティー、キャリアフェア（病院、薬局が大学に来て実習や就職の情報提供を行う）、ボランティア活動など様々な学内のイベントにも参加させていただいた。大抵のイベントでは軽食がついているためコミュニケーションをとれる時間が自然と長くなっている。イベントには家族や卒業生も参加が可能なものもあり、この機会に学生どうしだけでなく、学生と教員、家族、卒業生との結びつきが強くなっているように感じられた。またホームカミングやハロウィーンなどの季節のイベントに合わせて飾り付けや仮装のコンペが大学内で開催されるため、勉強以外でも学生と教員が一緒に楽しむ場が多いとも感じた。このようなイベントを通して人間関係が生まれ、結果的にドロップアウトする学生が減るのではないかと思う。

最後に、本研修にて2か月間貴重な体験をすることができました。ご支援いただいた本学薬学科の先生方に、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。また Dr. Deborah Berlekamp, Dr. Debra Parker, Dr. Christopher Sippel はじめとするUFの教職員の方々に滞在期間に大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。